

日本語教育における 「A4 一枚一単元教材」作成の試み

山内博之・政井美穂

1. 日本語学習の多様化

日本語学習者の多様化が叫ばれて久しいが、今後は、日本語学習そのものが多様化していくのではないと思われる。次の表1を見ていただきたい。表1は、訪日外国人数と、国内及び海外における日本語学習者数の2003年以降の推移を、それぞれ3年おきに示したものである。各年の人数については、100人の位を四捨五入し、千人単位で示してある。

表1 国内外の日本語学習者数と訪日外国人数の推移¹⁾

	2003	2006	2009	2012	2015
訪日外国人数 (単位：千人)	5,212	7,334	6,790	8,358	19,737
国内の日本語学習者数 (単位：千人)	135	153	171	134	192
海外の日本語学習者数 (単位：千人)	2,357	2,980	3,651	3,986	3,652

まず、表1の上段の訪日外国人数は、日本政府観光局が発表している訪日外国人数（訪日外客数）に基づくものである。これを見ると、訪日外国人数が、2012年から2015年にかけて急激に伸びていることがわかる。また、伸び率のみでなく、その数値自体も大きく、2015年の訪日外国人数は、2000万人弱であり、これは、日本の人口の約6分の1にあたる。

表1の中段の国内の日本語学習者数は、文化庁が行っている日本語教育実態調査によるものである。2003年から2015年までの国内の日本語学習者数の推移を見ると、2012年のみ、2011年3月に起きた東日本大震災のためか、数値

(2)

が落ち込んでいるが、それを除けば、概ね順調に増えていることがわかる。しかし、2012年から2015年にかけての訪日外国人数の伸びのような急激な伸びは見られず、かつ、訪日外国人数に比べれば、数値自体も非常に小さい。

表1の下段の海外の日本語学習者数は、国際交流基金が行っている海外日本語教育機関調査によるものである。海外の日本語学習者は、国内の学習者と同様、順調に増えてきたのであるが、一番最近の2015年の調査では、2012年と比べ、33万人余りの減少となっている。調査結果の詳細は国際交流基金のHPで見ることができるが、それによると、中国、韓国、インドネシアにおける日本語学習者の大幅な減少が全体の数値に影響を与えており、この3カ国を除けば、海外の学習者数は、2012年から2015年にかけても増加しているとのことである。

国際交流基金の報告書からは、中国と韓国においては、英語教育の早期化が、日本語学習者の減少に影響を与えていることが窺える。中国では、英語教育の早期化によって、中等教育においても、英語を外国語として選択する機関が増え、韓国では、教育課程の改定が行われて、中等教育においては、第二外国語が必修科目から外され、選択科目になったとのことである。また、インドネシアに関しては、英語教育の影響のことは述べられていなかったが、韓国と同様、教育課程の改定によって、中等教育においては、第二外国語が必修科目から外され、選択科目になったとのことである。つまり、この3カ国においては、英語教育の早期化、もしくは、教育課程の改定が、日本語学習者の減少の要因になっているのではないかと考えられる。

表1では、訪日外国人数、国内の日本語学習者数、海外の日本語学習者数という3つの数字の推移を見てきたが、表1全体を見て気づくことは、訪日外国人数の近年の急激な伸びと、その数の多さである。国内の日本語学習者数も増えてはいるのだが、訪日外国人数と比べると、増え方の程度が違っており、また、数自体もまったく異なっている。つまり、日本語教育期間に所属しない外国人が、ものすごい勢いで日本国内に増えつつあるということである。また、海外の学習者を見ると、中国、韓国、インドネシアという、日本語学習の“老舗”とも言える国における学習者数が減少している。その原因は、公教育において日本語が重視されなくなってきたということのようである。表1から推測できることを一言で言えば、日本語学習の場が「学校」から離れつつある、つまり、型にはまった形の教育から離れつつあるということなのではないだろうか。

現在、様々な初級学習者用の日本語テキストが出版されている。中でも、ス

リーエーネットワークの『みんなの日本語』は、そのシェアが90%以上であるとも言われており、国内外の日本語教育機関やボランティア団体などで、幅広く使用されている。しかし、これから必要になる日本語教材は、1冊のテキストではなく、気軽に始められて気軽にやめられ、また、どこから始めてどこでやめればいいのか簡単にわかるような、体系的があって、かつ、柔軟性に富んだ教材なのではないだろうか。そこで、本稿では、「A4 一枚一単元教材」という考え方を提案し、その教材の一例を示したいと思う。

2. A4 一枚一単元の語彙教材

A4 一枚一単元教材の作成は、本稿の執筆者の1人である政井が主に行い、勤務先である日本体育大学荏原高等学校の日本語の取り出し授業において使用している。政井は、語彙教材と文法教材の2種類を作成して使用しているが、ここでは語彙教材について述べる。

次頁に挙げる教材例1が、政井が作成した語彙教材の一例である。この教材は、動詞「食べる」の目的語となる名詞の習得を、主な目標にしたものである。

語彙の習得は、日本語学習者にとっては必須の課題であるが、「ステーキ」「ハンバーグ」「焼肉」「牛肉」などの名詞を個別に覚えてもあまり意味がない。また、「食べる」という動詞のみを覚えてもあまり意味がない。「ステーキ」「ハンバーグ」「焼肉」「牛肉」などの名詞が格助詞「を」を介して動詞「食べる」と結びつくことを理解し、それらを、単語ではなく文として発話できるようになることが、語彙学習の目的であると言える。教室での提示の仕方はいろいろあると思うが、上記の教材は、学習者が語を文の構成要素としてとらえ、文として発話できるようになることを目指した語彙教材である。

教材例1 「() を食べます」

() を食べます

【料理 (りょうり)】

ステーキ ハンバーグ シチュー 焼肉 (やきにく) 刺身 (さしみ)
 カレーライス パン そば うどん パスタ ごはん おにぎり
 もち サンドイッチ サラダ おみそ汁 (しる)

【肉 (にく)・魚 (さかな)】

牛肉 (ぎゅうにく) 豚肉 (ぶたにく) 鶏肉 (とりにく)
 ビーフ ポーク チキン 卵 チーズ さけ まぐろ
 いわし えび かに 貝

【野菜 (やさい)】

にんじん 大根 (だいこん) ジャがいも ごぼう かぼちゃ かぶ
 なす ほうれん草 (そう) キャベツ 白菜 (はくさい) ねぎ
 玉 (たま) ねぎ ピーマン トマト きゅうり にんにく
 しょうが パセリ しいたけ オリーブ 豆 (まめ)

【果物 (くだもの)】

バナナ りんご みかん オレンジ レモン スイカ 桃 (もも)
 いちご 柿 (かき) ぶどう

【デザート・お菓子 (かし)】

アイスクリーム ソフトクリーム ケーキ シュークリーム プリン
 ゼリー チョコレート あめ せんべい

【食事 (しょくじ)】

朝 (あさ) ごはん 昼 (ひる) ごはん 晩 (ばん) ごはん
 朝食 (ちようしょく) 昼食 (ちゅうしょく) 夕食 (ゆうしょく)
 夜食 (やしよく) ランチ デイナー お昼 (ひる)
 夕飯 (ゆうはん) おかず ○○定食 (ていしょく)

 ◎にていることば

「なめます」「かじります」

教材例1には、山内編 (2013) がベースになっているという特徴がある。山内編 (2013) とは、ひつじ書房から出版された『実践日本語教育スタンダード』という本であるが、この山内編 (2013) の第1章では、500 ページ余りの紙幅を割き、学習者が習得すべきであろうと思われる 8110 語を 16 分野 100 話題に分類し、それらの語を文として取り出せるよう、工夫が施されている。その

16 分野 100 話題を次に示す。

表 2 分野と話題の分類

分野	話題
文化	食、酒、衣、旅行、スポーツ、住、言葉、文芸・出版、季節・行事、文化一般 (10 話題)
人生・生活	町、ふるさと、交通、日常生活、家電・機械、家事、パーティー、引越し、手続き、恋愛、結婚、出産・育児、思い出、夢・目標、悩み、死 (16 話題)
人間関係	家族、友達、性格、感情、容姿、人づきあい、喧嘩・トラブル、マナー・習慣 (8 話題)
学校・勉強	学校 (小中高)、学校 (大学)、成績、試験、習い事、調査・研究 (6 話題)
芸術・趣味	音楽、絵画、工芸、写真、映画・演劇、芸道、芸術一般、趣味、コレクション、日曜大工、手芸、ギャンブル、遊び・ゲーム (13 話題)
宗教・祭り	宗教、祭り (2 話題)
歴史	歴史 (1 話題)
メディア	メディア、芸能界 (2 話題)
通信・コンピュータ	通信、コンピュータ (2 話題)
経済・消費	買い物・家計、労働、就職活動、ビジネス、株、経済・財政・金融、国際経済・金融、税 (8 話題)
産業	工業一般、自動車産業、重工業、軽工業・機械工業、建設・土木、エネルギー、農林業、水産業 (8 話題)
社会	事件・事故、差別、少子高齢化、社会保障・福祉 (4 話題)
政治	政治、法律、社会運動、選挙、外交、戦争、会議 (7 話題)
ヒト・生き物	人体、医療、美容・健康、動物、植物 (5 話題)
自然	気象、自然・地勢、災害、環境問題、宇宙 (5 話題)
サイエンス	算数・数学、サイエンス、テクノロジー (3 話題)

山内編 (2013) においては、上記の 100 話題のそれぞれの中に「名詞リスト」と「語彙・構文表」というものがある。名詞リストには、具体物を表す名詞のリストと抽象概念を表す名詞のリストとがある。以下に示すのは「食」話題の具体物を表す名詞リストの抜粋である。

表3「食」話題の具体物を表す名詞のリスト (抜粋)

意味分類	A	B	C
【食べ物】	食べ物、料理	飯	
【食事】	朝ごはん、昼ごはん、 晩ごはん、ランチ	お昼、夕飯、昼食、 おかず	主食、定食
【料理名：固体】	カレー、パン、ごはん、 サラダ、うどん	サンドイッチ、ステー キ、ハンバーグ、刺身、 そば、麺、実	ライス、粥、 漬物、～漬け
【料理名：液体】		スープ	汁
【菓子・ デザート】	お菓子、デザート、 おやつ、飴、ケーキ、 アイスクリーム、ガ ム、クリーム	ゼリー	あられ
【飲み物】	飲み物、お茶、コー ヒー、牛乳、水、お酒、 ジュース、ビール	紅茶、湯、ウイスキー、 ワイン、生、カクテ ル	蒸留酒
【食材】		材料、食品、具、素 材	食材
			農産物、産物、 恵み
	肉、牛肉、豚肉、鶏肉、 卵	にわとり、ポーク	
	魚	エビ、鮭、カツオ	
	米	小麦、豆、大豆、穀 物	
	野菜、人参、大根、じゃ がいも、トマト、ピー マン、玉ねぎ、茄子	ネギ、にんにく、生姜、 唐辛子、パセリ、きゅ うり、椎茸、キャベ ツ、白菜、芋、ゴボ ウ、かぼちゃ、かぶ、 オリーブ、～菜、葉	
	果物、フルーツ、オ レンジ、レモン	ぶどう、実	果実
		皮、生地	
		チーズ、餅	
水	湯	熱湯	

この名詞リストの特徴は、意味による分類が施されているということである。たとえば、【料理名：固体】という意味によって分類されたものには、「カレー」「パン」「ごはん」「サラダ」「うどん」などがあるということである。表の縦の列にはA、B、Cという欄があるが、これは、親密度・難易度の程度を大まか

に表したものである。AからB、Cへと進むにつれて、親密度が低くなり、難易度が上がるように感じられるということである。

1つの話題の中には、名詞リスト以外に、語彙・構文表というものがある。その一例を次の表4に示す。「食」話題の中には、「飲食」「調理」「外食」「健康」に関する語彙・構文表がある。表4は、それらのうち、「飲食」に関する語彙・構文表の抜粋を示したものである。語彙・構文表には、それぞれ、述語となる動詞と名詞の関係を表す「叙述」タイプのもの、被修飾名詞とそれを修飾する述語成分との関係を表す「修飾」タイプのものであるが、表4は「叙述」タイプのものである。

表4 飲食構文：叙述（抜粋）

名詞群	助詞	述語		
		A	B	C
【食べ物】【食事】【料理名：固体】【料理名：液体】【菓子・デザート】【飲み物】【食材】	を	食べる	召し上がる、いただく、味わう	食う
【食べ物】【食事】【料理名：固体】【料理名：液体】【菓子・デザート】【飲み物】【食材】	を		なめる、吸う、飲み込む	しゃぶる

この表の名詞群の欄にある【食べ物】【食事】【料理名：固体】などは、表3の意味分類と同一のものである。つまり、表4に示されている「食べる」「召し上がる」「いただく」などの動詞は助詞「を」を介して、【食べ物】【食事】【料理名：固体】などに属する「カレー」「パン」「ごはん」「サラダ」「うどん」などの名詞と結びつき得るということである。先に示した教材例1は、山内編(2013)の表3と表4を参考にして作られたものである。また、山内編(2013)の「食」話題には、表4に示した飲食構文以外にも、調理構文、外食構文、健康構文の語彙・構文表があるので、それらをベースにして、教材例1のような語彙教材を作っていくことができる。

山内編(2013)の語彙・構文表をベースにして、教材例1のような語彙教材をどんどん作成していくと、それらは、表2に示された分野・話題によって整理することができるようになっていく。つまり、表2の分野・話題を見ながら、学習者は、自分の興味のある話題の語彙教材を選んで、学習することができるということである。

3. A4 一枚一単元の文法教材

次に、A4 一枚一単元の文法教材について述べる。次の教材例 2 も、教材例 1 と同様、本稿の執筆者の 1 人である政井が作成し、勤務先である日本体育大学荏原高等学校の授業において使用したものである。なお、政井が作成した元々の教材には、漢字とカタカナすべてにひらがなのルビが振られているが、教材例 2 では、それらを省略して示す。

教材例 2 「に+も (格助詞+とりたて助詞)」

2 つめの文を言う (1)

「D クラス に も 留学生が います。」

◎ 弟の 学校 同じ (same)

1. 弟の 学校 に も アメリカ人の 先生が います。
2. 弟の 学校 で も フランス語を 勉強しなければ なりません。
3. 弟の 学校 から も 海と 山が 見えます。

【練習】

Eg パーティーで バトくんに 会いましたか。(はい・ガンくん)
→ (はい、会いました。ガンくんにも 会いましたよ。)

- 1) スーパーで ポテトチップを 売っていますか。(はい・コンビニ)
→ ()
- 2) この 電話で 外国に かけられますか。(はい・あそこ)
→ ()
- 3) C クラスに 留学生が いますか。(はい・D クラス)
→ ()
- 4) 学校の 近くに 飲み物の 自動販売機が ありますか。(はい・食堂)
→ ()
- 5) ここから 寮が 見えますか。(はい・3 階)
→ ()
- 6) 埼玉栄高校と 柔道の 試合を しましたか。(はい・国士館高校)
→ ()
- 7) 唐揚げより 焼肉が おいしいですか。(はい・ステーキ)
→ ()

教材例 2 は、学習者たちが、1 つの文のみを発話して相手にターンを渡すのではなく、それにもう 1 つ文をプラスして発話してから、相手にターンを返すことを目的としたものである。初級後半の学習者だと、相手の質問に対して最低限の返答をすることは何とかできるのだが、そこにもう 1 つ文をプラスして、

会話をアクティブなものにすることがなかなかできない。A、Bという2人の会話者がいるとして、「A → B、A → B、A → B」というように会話が進行していくのではなく、「A → BB → AA → BB → A」というような、対等な力関係で会話を進めていけるようになることを目的にするということである。

そのための鍵となる文法の1つが、「に+も」という「格助詞+とりたて助詞」という文法である。そして、「Cクラスに留学生がいますか。」という質問に対して、「はい、います。」と答えるのみでなく、「はい、います。Dクラスにもいます。」というように、さらに1文を付加して答える発話を形成するための文型が、このプリントで学ぶべき文型となっている。

ただし、教材例2は、教材例1とは違い、何かを参考にして作られたわけではない。つまり、教材例1における山内編（2013）のような存在が、教材例2にはない。これは、教材例2のプリントを見ているかぎりでは、特に問題になることではないが、このような教材を作りためていき、それらをどのように整理・収納するかを考えた際に問題になることである。教材例1のような語彙教材を作りためていった際には、表2のような分野・話題でそれらを整理することができ、また、そうすることによって、学習者や教師が、その教材を取り出しやすくなっている。

したがって、語彙教材を作る際のベースとなる山内編（2013）のようなものを、文法教材についても作成することが、今後の大きな課題となるであろう。

4. まとめ

今後、日本語学習の主要な場が、少しずつ学校から離れていくのではないかと予想される。学校で学ぶとしても、毎日決まった時間にまとまった量の日本語の授業を受けるのではなく、不定期に選択的に授業を受けるということが多くなるのではないかと。また、学校には行かず、自分で短い時間学ぶという学習者も増えてくるであろう。たとえば、2～3枚のプリントを2～3時間のみ勉強し、その後、日本での短い滞在を楽しむという学習者も増えるのではないかと。

学習者が多様化し、学習のあり方自体も多様化していく。そのような状況に対応する1つの教材のあり方として、今回、「A4一枚一単元教材」というものを、語彙と文法について作成してみた。今後も作成を続け、執筆者の勤務校で使用し続けるとともに、その良し悪しの効果測定も試みてみたいと思う。

(10)

注

- 1) 表1で示した「訪日外国人数」については、日本政府観光局のHPで詳細を知ることができる。「国内の日本語学習者数」については、『国内の日本語教育の概要』という報告書があり、それを文化庁のHPで見ることができる。また、「海外の日本語学習者数」については、『海外の日本語教育の現状』という報告書があり、出版社を通して購入もできるが、その概要を国際交流基金のHPで見ることができる。

参考文献

山内博之編（2013）『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房

(やまうち ひろゆき・実践女子大学教授
まさい みほ・実践女子大学卒業生)